

よしかわICT教育通信

発行：R3.11 吉川市教育委員会 ☎984-3564（学校教育課） Vol. 6

◆ICT活用による学習の変化

1人1台環境を最大限に生かすために、今年度、市では試験的に学習支援ソフトを導入して子供たちに求められる「情報活用能力」の向上を目指しています。今回は学習支援ソフト「ミライシード※」を中心に紹介します。

※株式会社ベネッセコーポレーションの学習支援ソフト

「未来を創る」子供たちを支援するタブレット学習ソフト

ミライシード



協働学習・個別学習・プレゼンテーションなどの学習場面に対応したタブレット学習用オールインワンソフト。

瞬時に意見を共有し“協働学習”へ

今までは・・・

- 発表した人の意見しか聞くことができない。
- 意見を書いた付箋を大きな紙に貼り付ける等、時間がかかる。

「ムーブノート」の活用で実現できたこと

- クラスメイトの意見を瞬時に確認できる。
- 様々な視点を知り、それを踏まえて自分の考えを磨き上げることができる。
- 先生は全体の意見を瞬時に把握し、自動集計機能等を使い、全体の傾向や気になるキーワードを取り上げて全員参加の授業を実現。



自分の意見を全体に共有！
他の人の意見も見られる！

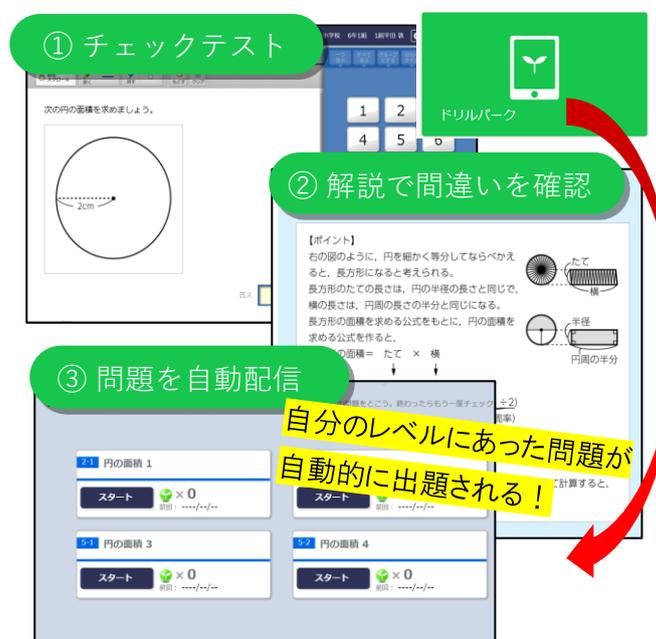
1人1人に最適化された“個別学習”

今までは・・・

- 習熟度の差によって取り組みの進度が違う。
- それぞれに合ったプリント等を用意することが難しい。

「ドリルパーク」の活用で実現できたこと

- 基本から応用まで主要科目 25000 問以上にチャレンジできる。
- 理解度に合わせ出題が変更される機能で苦手分野を重点的に学ぶことができる。
- 学習の記録から AI が目標やカリキュラムを個別最適化してくれる。
- 自動採点のため、先生の採点を待たずに進めることができる。



① チェックテスト

② 解説で間違いを確認

③ 問題を自動配信

自分のレベルにあった問題が自動的に出題される！

自分の考えを自由に表現する “プレゼンテーション”

今までは・・・

- 紙だけでは発表の表現方法が限られている。
- 今後求められる ICT を使った発表をする機会が少ない。

「オクリンク」の活用で実現できたこと

- 直感的な操作でペイントや写真や動画なども簡単に挿入できる。
- 低学年でも無理なくプレゼンテーションを作成できる。
- カードを簡単に並べ替えて考えを順序立てて整理できる。
- 先生もリアルタイムで子供の発表資料の進み具合を把握できる。



◆より安全な利活用に向けて -有償フィルタリングソフトの導入-

市では学習用タブレット端末の持ち帰りを見据えて、ICT 機器のセキュリティをより高める取り組みをしています。その一環として、12 月より有償フィルタリングソフト「i-FILTER@Cloud※」を導入し、これまでのセキュリティの仕組みよりもさらに安全な使用が可能になります。 ※デジタルアーツ株式会社のフィルタリングソフト

フィルタリングの特徴

★「ホワイト運用」

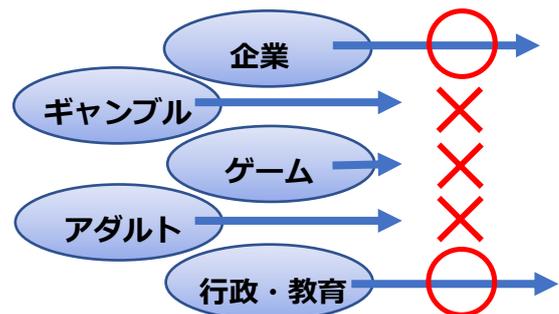
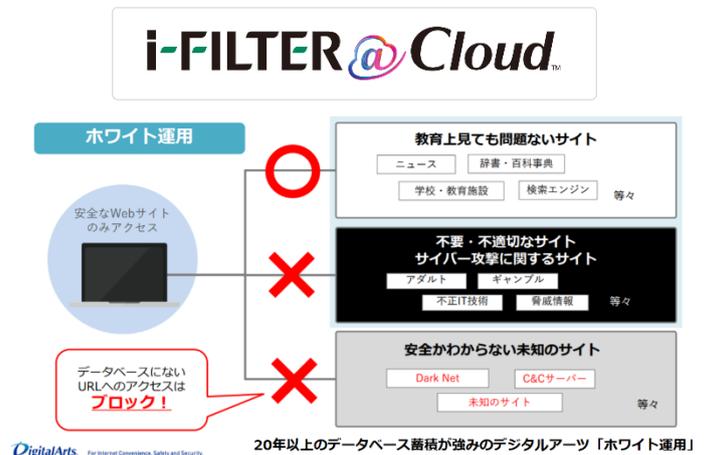
国内で検索可能な URL を全て網羅したデータベースによって、安全と判断されたWEBサイトのみアクセスできる仕組みで、ウイルスやサイバー攻撃を防ぎます。

★学習に不要なカテゴリをブロック

Web サイトを100以上のカテゴリに分けて、学習に必要なページを閲覧できないよう細かく設定することが可能です。

★インターネット利用時間帯を制御

深夜の時間帯など、特定の時間帯についてインターネットを使用することができないよう、制御しています。





リアルな世界でもこの3つについてどう考えているか、どう振る舞っているかを話しあってみるといいですね。

I C T

いつも ちゃんと つかおう

術

ネット世界もリアルな世界と同様だと自覚する

今や情報端末を開けば、簡単にインターネットの世界に入れます。顔見知りはもちろん、相手が誰だかわからない人ともつながれます。だからネット世界は特別な世界と思いがちです。

インターネットを活用する術は容易に手に入れることができる時代ですが、それを活用するための心構えや姿勢は現実世界で普段行っているそれがそのまま出るものです。

さらに顔も見えない、時には匿名で自分のことがわからない状況では、その心構えや姿勢も弱まることもままあります。

第6回
日々の生活姿勢がICT活用にも影響する

話し合い

初めて人と会う時は挨拶をします。人のものを借りるときは持ち主に断ります。

リアルな世界では当たり前に行っていることが、ネット世界ではいいかげんになってしまうことがままあります。また、リアルな世界でそうしたことを疎かにしている人は、そのままネット世界でもそれが出ます。

こうしたことが、ネット世界ではトラブルの原因にもなります。顔や相手がよくわからない場合などは、なおさらです。それを利用して悪意を持った行為を仕掛ける人も中にはいます。

情報端末やネットが原因ではないのです。リアルな世界で他者への配慮、危険予知等に欠ける人は、ネット世界でも同じようなことが起こり得ます。

日々のリアルな生活の中での人との関わり方、身の守り方を意識していくことは、ネット世界の対応力を高めることにもつながるのです。